

II 特別連載 II

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第481回

産業医科大学の活動報告



永田 智久
(産業医科大学 産業生態科学研究
産業保健経営学研究室
准教授)

台湾から招へい

健康経営に関する共同研究

2025年11月6日から19日までの14日間の日程で、台湾の中国医薬大学(大学院生2名、大学生2名および引率教員ロリーティン・リン教授の計5名)と産業医科大学との研究インターンシップを行いました。

産業医科大学は、優れた産業医・産業保健専門職の養成と産業医学の振興を目的・使命として1978年に設立された。産業医学を専門とする世界で唯一の大学です。労働者の健康と安全をまもる産業医学に関連する研究および、日本側で主に受け入れを行った産業保健経営学研究室が主要なテーマとしている「健康経営に関する研究」を軸にプログラムを構成しました。

労働環境の観察と対策検討

産業医学の研究を行うにあたり、現場の労働環境をよく観察し、対策を検討することが重要です。台湾メンバーに、日本の労働現場の実態をよく理解していただくために、2回の現場巡視の機会をもうけました。1回目は11月7日に海底ケーブルを製造する事業所(株OCC海底システム事業所)を訪問し、作業内容の見学および巡視を行いました。取り扱っている化学物質(有機溶剤)について、作業環境測定士の資格を持つ者が、実際に気中の物質をサンプリングし、帰学後にガスタクロマトグラフィーで濃度測定を行いました。

2回目は11月17日にパン製造工場(株フラインソアロジステック部福岡センター、株ニューイングベーカー九州福岡工場)を訪問しました。これらの会社では、重量物取扱いや繰り返しの上肢作業など、人間工学的健康障害リスクについての評価を行い、その対策

プログラムスケジュール について議論しました。	11月6日	来日、オリエンテーション、学内施設見学
	11月7日	レジデントによる研究発表 海底ケーブルを製造する事業所の見学・巡視
	11月8日	門司港・下関の観光
	11月10日	人間工学的健康障害リスクに関するレクチャー
	11月11 ~13日	日本の健康経営、 台湾・インドネシアの職場環境改善の事例、 労働者の睡眠と健康に関するレクチャー
	11月14 ~15日	産業医科大学国際シンポジウム
	11月17日	パン製造工場を訪問
	11月18日	インターンシップの振り返りと今後に向けた議論
	11月19日	帰国

健康経営への理解促進

現場での観察とともに、体系的な知識も重要です。本インターンシップでは、人間工学的健康障害リスク、心理社会的健康障害リスク(主に睡眠や組織的支援)についてのレクチャーをもとに、リスクアセスメントの方法および対策の進め方について議論しました。

健康経営とは、「従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践することであり、企業理念に基づき、従業員等への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織の活性化をもたらし、結果的に業績向上や株価向上につながる」と期待する考え方です。日本で始まった取り組みですが、同じような考え方の取り組みは多くの国で進められており、台湾も同様です。日本では、経済産業省や証券取引所が力を入れてけん引し、参加企業の数の圧倒的な多さが強みです。日本と台湾の取組みの強みと弱みを整理し、両国の取組みの改善点について理解を深めることができました。

このプログラムの期間中、産業医科大学国際シンポジウム2025に参加しました。ハーバード大学のカワチ・イチロー教授を迎えた基調講演など、国内外から多くの研究者・実務家に参加し、知見の共有とネットワーキング



産業医科大学国際シンポジウムで講演するローティン・リン教授



無響室での実験方法の説明を受ける招へい者ら



福岡国際空港でのお別れ(右端は著者の永田智久氏)



招へい学生による研究発表

■プログラムの成果

を拡げることができました。休日には時間をみつけ、皆で門司港・下関小倉を観光しました。唐戸市場、関門トンネル、門司港レトロ、小倉城、TOTOミュージアムを見学し、台湾メンバーは日本の食文化を楽しみました。

今回のプログラムでは、主に二つの成果が得られました。

一つ目は、次の研究プロジェクトへの発展につながる知見です。今回は人間工学的・心理社会的健康障害リスクの評価を行いました。これら以外の物理的・化学的・生物学的健康障害リスクを加えた五つのリスクについて、どの職業・職種にこれらのリスクがどの程度存在するかに対応表 (Job Exposure Matrix (JEM))といえます) をつくる研究へと発

展させることができました。

二つ目は、両大学の学生・研修医が学び、交流する機会を得たことです。産業医科大学産業保健経営学研究室には、9人の研修医がいます。彼ら・彼女らにとっても貴重な学びとなったようです。

〈日本側研修医の感想〉台湾の大学院生と交流する中で、産業保健が世界共通の分野であることを再認識しました。彼らの高い語学力や研究水準に直接触れ、自分がいかに日々の業務に追われ、内向きの視点になっていたかを痛感しています。自分が所属する研究室が国内外で高く評価される組織へと発展していくるよう、私自身も国内だけでなく、世界標準の視点を持って活動していきたいと思える非常に貴重な機会になりました。

最後に、このような貴重な機会を与えていただいた、科学技術振興機構 (JST) に感謝申し上げます。